

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 23 年 11 月 8 日  
東京電力株式会社

## <タービン建屋地下のたまり水の処理>

高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

### [処理設備]

- ・6/17 20:00 放射性物質除去装置の本格運転を開始。
- ・6/24 12:00 淡水化装置(逆浸透膜型)における処理を開始。
- ・6/27 16:20 循環注水冷却を開始。
- ・8/7 16:11 蒸発濃縮装置の本格運用を開始。
- ・8/19 19:33 第二セシウム吸着装置(B系ライン)を起動し、セシウム吸着装置および除染装置との並列運転によるたまり水の処理を開始。19:41 定常流量に到達。
- ・11/6 11:00 頃 現場パトロールを実施していた協力企業作業員が蒸発濃縮装置のボイラーが停止していることを確認し、蒸発濃縮装置3B、3Cを停止。現場盤において「ボイラー給水タンク水位低低」警報が発生していたため、これによりボイラーが停止したものと推定。その後、給水タンク水位低下の原因調査を行っていたが、ボイラー補給水移送ポンプの予備機を起動したところ、同警報がクリアしたことから、同ポンプ1台の不調と判断。なお、蒸発濃縮装置が全台停止したものの、淡水化装置(逆浸透膜型)による淡水化処理および原子炉への注水は継続中。
- 11/7 14:55 ボイラー補給水移送ポンプの予備機を使用し、停止していたボイラーと別のボイラーを起動。その後、17:24 に蒸発濃縮装置3B、18:00 に蒸発濃縮装置3Cをそれぞれ起動。
- 11/8 2:20 水処理設備淡水化装置内の蒸発濃縮装置用のボイラーにおいて、ボイラーの給水タンクの水位低下を知らせる警報が発生したため、2:24 にボイラーを手動停止。その後、2:28 に蒸発濃縮装置3B、2:31 に蒸発濃縮装置3Cをそれぞれ停止。なお、蒸発濃縮装置が全台停止したものの、淡水化装置(逆浸透膜型)による淡水化処理および原子炉への注水は継続中。なお、今後原因調査を実施予定。

### [貯蔵設備]

- ・6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付中。

## トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元 移送先	移送状況
1号機	・1号機タービン建屋 2号機タービン建屋	・11/7 移送予定なし
2号機	・2号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・11/4 9:38～11/8 15:00 移送実施
3号機	・3号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・11/2 10:11～11/8 15:05 移送実施
6号機	・6号機タービン建屋 仮設タンク	・11/7 移送予定なし
	・仮設タンク メガフロート	・11/7 移送予定なし

移送先	移送先の水位状況 (11/8 7:00 時点)
プロセス主建屋	水位: O.P.+ 2,246 mm(水位上昇累計: 3,463 mm) 11/7 7:00 から 115 mm 下降
雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)	水位: O.P.+ 2,770 mm(水位上昇累計: 3,496 mm) 11/7 7:00 から 358 mm 上昇

トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (11/8 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P. <+ 850 mm (11/7 7:00 と同じ)	O.P.+ 3,850 mm (11/7 7:00 から 47 mm 上昇)	O.P.+ 4,527 mm (11/7 7:00 から 50 mm 上昇)
2号機	O.P.+ 3,009 mm (11/7 7:00 から 11 mm 下降)	O.P.+ 3,026 mm (11/7 7:00 から 12 mm 下降)	O.P.+ 3,116 mm (11/7 7:00 から 17 mm 下降)
3号機	O.P.+ 3,194 mm (11/7 7:00 から 9 mm 下降)	O.P.+ 2,947 mm (11/7 7:00 から 13 mm 下降)	O.P.+ 3,136 mm (11/7 7:00 から 11 mm 下降)
4号機	-	O.P.+ 2,992 mm (11/7 7:00 から 7 mm 下降)	O.P.+ 2,992 mm (11/7 7:00 から 29 mm 下降)

<放射性物質のモニタリング>

海水核種分析結果(参考値) 10/24 採取分より、放射能濃度の検出限界値を下げる取り組みを開始。

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第一 5~6号機放水口北側約 30m	11/7	8:55	ND	0.05	0.04
福島第一 1~4号機放水口南側約 330m	11/7	8:35	ND	0.03	0.02
福島第二 1~2号機放水口南側約 7km	11/7	8:00	ND	ND	0.02

・その他、11/7に採取した福島県沿岸1地点および 11/6に採取した沖合5地点の海水における主要3核種(ヨウ素-131、セシウム-134,137)については全てND。

<使用済燃料プールの冷却> (11/8 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中(8/10 11:22~)	22.0
2号機	循環冷却システム	運転中(5/31 17:21~)	26.2
3号機	循環冷却システム	運転中(6/30 18:33~)	24.8
4号機	循環冷却システム	運転中(7/31 10:08~)	32

[2号機]・11/6~ 使用済燃料プール放射性物質除去装置の運転を開始。

[3号機]・11/7 14:30~19:17 使用済燃料プール循環冷却一次系ポンプ吸込み圧力低下に伴う警報の発生への対応として、逆洗により一次系ストレーナの詰まりを清掃するため、循環冷却システムを一時停止。(停止時:約 24.8、再開時:約 22.5)  
外気の影響でスキマサージタンクの水温が停止時よりも低くなったものと推定

[4号機]・8/20~ 使用済燃料プール塩分除去装置の運転を開始。

11/8 0:25 4号機使用済燃料プール水塩分除去装置の逆浸透膜ユニットにおいて、漏えい警報が発生したことから、同装置が自動停止。警報に伴い、安全保護インターロックにより、各ユニットの出入口に設置されている全ての隔離弁が閉じていることを確認し、また、漏えいリスクのある箇所は受けパンが設置されており、同ユニット内の液体が全て漏れ出したとしても全て受けパンの中で収まる設計であることから、漏えいの拡大および系外への漏えいの可能性はほぼないと判断。なお、使用済燃料プール循環冷却システムについては継続運転中。その後、当該装置の現場確認を行った結果、漏えいは停止していること、および漏えいした液体が受けパン内に留まっていること(約5L)、逆浸透膜ユニットのポンプケーシングからの漏えい跡が存在することを確認。同日午後2時、漏えいした液体の拭き取りおよび警報のリセットを実施。詳細については今後調査予定。

< 原子炉压力容器への注入・原子炉の状況 > (11/8 11:00 時点)

号機	注入状況	給水ノズル 温度	原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約7.8 m <sup>3</sup> /h)	42.2	43.1	121.6 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約3.0 m <sup>3</sup> /h,炉心スプレイ系:約7.3m <sup>3</sup> /h)	68.3	72.4	117 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約2.3 m <sup>3</sup> /h,炉心スプレイ系:約8.0m <sup>3</sup> /h)	62.8	70.8	101.5 kPaabs

[3号機]・11/8 16:05 原子炉への給水系からの注水量を約3.0m<sup>3</sup>/hに調整。

[4号機][5号機][6号機] 特に変化なし。

< その他 >

- ・10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5,6号機滞留水浄化の水を利用し、散水を継続実施中。

以上